

ネット通販

住まい関連の広告事業に着手 ゲームアプリの外資系大企業



セカイエ株式会社
代表取締役社長
高間 紘平

代表取締役会長兼社長
田中 良和

執行役員
ライフノベーション事業本部長
浅沼 達平

続々と新規プレイヤーが参入する住宅業界。11月5日にはゲーム業界から新規参入した企業の記者会が六本木ヒルズで開催された。グリー(株)(田中良和代表取締役会長兼社長)とは、昨年から住まい事業で急成長を遂げている外資系企業である。2004年の創業。従業員は海外200名を含めて1590名。売上高は連結で985億円。ウェブゲーム(インターネット用ゲーム)やネイティブゲーム(スマートフォン時代のゲーム)で急成長を遂げており、2014年から新領域事業として住まい事業を開始。オンラインリフォームサービス「リノコ」を展開するセカイエ(株)をM&Aで買収。今年11月から新ブランドのLIMIA(リミア)という暮らしをデザインする住まいのビジュアルプラットフォームをインターネット上でオープンした。

同社の強みは次の3つである。

- ① インターネットを通じた大規模マーケティング
- ② ゲーム運営で鍛えられた分析力と運営力
- ③ 数千万規模のプラットフォーム運営

リノコでは、全国800社の施工店をネットワーク化しており、独自の100点満点の評価システムで、アンケート結果や受注で点数の低い事業者は自然と仕事が回らないシステムを開発。今年はリノコAWARDという賞を創設。成績優秀の施工店を表彰する催しを開催する。

LIMIA(リミア)では、約500社の住まいや暮らしの専門業者が関連しており、記者会見当日は、(株)サンゲツマーケティング部リフォーム事業推進室長 岸本洋和氏、住友不動産(株)事業部門担当 副社長 事務局責任者 三野嘉久氏、東京ガスリモデリング(株)取締役 久保田順一氏、(株)日比谷花壇 執行役員 ビジネスソリューション事業統括部法人事業部部長 内藤純氏が登壇。サンゲツの岸本室長は商社としてこれまで対企業向けに流していた良質な情報を一般消費者にどんどん発信してほしいと語った。住友不動産の三野

氏はもともと旧耐震の家を対象としてはじまった大規模リフォームは、今では新耐震基準の家が増えている状況であり、大きな工事を望まず、年齢層も若い。ユーザーの広い需要を創出してほしいと語った。

住まい事業は、2018年6月期で売上高100億円を目指している。すでにリノコでは年商20億円を突破している。リミア事業は当面広告事業としての収益化を目指し、将来的にはメディアとして盛り上げてゆき、専門事業者としてのマッチングビジネスを目指していく。

楽天出身の田中社長によると、同社はソーシャルメディア事業から、生活産業に近い領域に近づいており、インターネット化が進んでいない住宅市場に注目。「当初は身も知らずの人に工事を発注するのかと心配だったが、意外にも伸びてきて、対面でなくてもできる仕事だと分かった。思えばオンライン証券も、はじめは顔も見ずに証券を買う人はいないと言われていたのが15年で立場が逆転した。オンラインゲームがこの5年で3000億円から1兆円に伸びたのと同様に、住宅産業の新しい動きが起きることに期待したい」と語った。